

市民協働ワークショップの開催結果

第1回 開催結果報告

高田松原津波復興祈念公園 市民協働ワークショップ

～ 公園について知ろう ～

平成 27 年 10 月 20 日開催



県では、東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市高田松原地区を対象に、学識経験者等で構成する有識者委員会を設置し、本公園の基本設計の検討を進めています。平成 27 年 10 月 20 日に、地域の皆様に本公園の検討状況等についてお知らせし、より良い公園とするため、様々なご意見をお聴きする「高田松原津波復興祈念公園市民協働ワークショップ～第1回 公園について知ろう～」を開催しました。

ワークショップには**中学生から80歳代までの幅広い世代の方々、総勢約80名にご参加いただき**、全9班に分かれて、基本計画に関する質疑や、どのような公園にしたいかなど意見交換を行い、最後はグループ毎に発表を行いました。

■ワークショップの内容



1 <基本計画の概要説明>

ワークショップの開催にあたり、平成27年8月21日に策定公表した「高田松原津波復興祈念公園 基本計画」について、公園の基本理念・基本方針や空間構成、また**避難計画や公園内に残されている震災遺構等について説明**を行うと共に、公園に関連する復旧・復興事業として、**第一線堤・第二線堤の復旧、高田海岸の再生、高田松原の再生について説明**を行いました。

2 <グループワークショップ>

その後、班毎に自己紹介を行い、**復興祈念公園について思っていることや公園の説明を聞いて感じたこと。また、基本計画に対する疑問等**について意見交換を行いました。



3 <意見発表>

最後に、それぞれのグループで出された意見を、グループ毎に発表者を決め発表を行いました。主な意見は次ページに示したとおりです。

■第1回ワークショップ 参加者の皆さんからの主な意見

- ＜陸前高田らしさ＞ 高田らしさを活かした公園にしたい（海とのつながり、歴史文化等）。
- ＜市民の利用＞ 市民生活に根ざした、市民が日常的に利用しやすい公園にしたい。
- ＜祈りの場＞ 祈りの場は静かで行きやすい場所がよい。／祈りの方向のとらえ方は人それぞれ異なる。
- ＜築山＞ 景観的にはあった方がよい。／空間を仕切るだけであれば築山でなく植栽で十分。
- ＜安全確保＞ 人々が命を落とすことのないような公園を作ってほしい。／浸水区域内に公園を設置することは疑問。人が集まる施設はせめて浸水区域外に設置すべき。
- ＜一時避難＞ 万一逃げ遅れた場合の避難場所（タワー等）はあった方がよい（特に高齢者・身体障害者対応）。
- ＜避難方法＞ 車は大事な財産なので、車での避難も考えるべきではないか。
- ＜震災遺構＞ 遺構はできる限り現状のまま保存したい。／複数残すことの意義が分からない。
- ＜教訓の伝承＞ 東日本大震災の教訓を、後世まできちんと伝えられるような施設としたい。
- ＜伝承施設＞ リアルな体験ができる施設としたい。／一本松記念館等の他施設との役割分担が必要。
- ＜高田松原・海岸＞ マツ林の再生過程を楽しむ。／元の風景や利用環境（海水浴、散策等）を再生してほしい。
- ＜植栽＞ 高田が北限の種、高田の農業に関連ある種、花が楽しめる種などを植栽してはどうか。
- ＜交流・地域活性＞ 国内外から多くの人々が訪れ、観光や経済、市民交流などの活性化につながる公園にしたい。
- ＜市街地との連携＞ 公園ばかりに人が集まるのではなく、そこから市街地へ人が流れるような工夫が欲しい。
- ＜管理運営＞ 参加体験型のイベントを開催する。／公園内への民間の出店、公園による雇用創出など。



開催日：平成27年10月20日（火）

開催時間：18時30分から21時00分

開催場所：陸前高田市役所4号棟3階第6会議室

参加人数：約80名



第2回 開催結果報告

高田松原津波復興祈念公園 市民協働ワークショップ

～ どんな利活用ができるだろう?～

平成28年1月27日、31日開催

県では、東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市高田松原地区を対象に、学識経験者等で構成する有識者委員会を設置し、本公園の基本設計の検討を進めています。平成28年1月27日、31日に、地域の皆様に本公園の検討状況等についてお知らせし、より良い公園とするため、様々なご意見をお聴きする「高田松原津波復興祈念公園市民協働ワークショップ～第2回 どんな利活用ができるだろう?～」を開催しました。

今回のワークショップは、より多くの方々に参加いただけるよう、平日の夜と休日の昼の2回開催しました。ワークショップには、**中学生から70歳代までの幅広い世代の方々、延べ48名にご参加いただき**、テーマ毎に分かれて意見交換を行い、最後はグループ毎に発表を行いました。

■ワークショップの内容

1 <全体説明>



本公園のこれまでの検討経緯、第1回市民協働ワークショップの結果概要、公園の基本設計の検討状況等について説明を行いました。

2 <テーマ別意見交換>



その後、4つのテーマにわかれて意見交換を行いました。

3 <意見発表>



最後に、各グループで出された主な意見の発表を行い、全テーマの議論の内容を全員で共有しました。

<意見交換のテーマ>

- テーマ1 高田松原の利用のリスク軽減
- テーマ2 利活用（教訓の伝承）
- テーマ3 利活用（レクリエーション・交流）
- テーマ4 植栽・自然再生



開催日：平成28年1月27日（水）、31日（日）

開催時間：27日 18時30分から21時

31日 13時30分から16時

開催場所：陸前高田市役所4号棟3階第6会議室

参加人数：延べ48名（27日26名/31日22名）

■第2回ワークショップ 参加者の皆さんからの主な意見

テーマ1：高田松原の利用のリスク軽減

- ＜津波規模の想定＞ 想定する津波規模の設定は難しい／避難に要する時間を再確認すべき／以前の津波を基準に考えるべき
- ＜避難施設＞ 避難タワーやシェルターの設置／避難用の船の設置／ヘリポートの設置
- ＜避難ルート＞ 国道45号へ向かう古川沼の横断橋／国道45号の渋滞を防ぐ対策（ゲート等で強制的に）／国道45号に立体横断施設を設置／気仙川の横断は避難ルートにしない／緊急車両の通れる幅員確保
- ＜避難サイン＞ 避難路を色や光、植栽で表示／花火等で危険を伝達／海拔高度や避難距離を表示／立体避難地図の設置
- ＜車での避難＞ 車での避難は避けるべき／距離的に車でないと避難が困難／車での避難訓練を実施して検証
- ＜要介護者への対応＞ 身体障がい者用の駐車スペースを確保／入園の意思確認の工夫（チケット等）
- ＜ソフト対策＞ 危険な場所であることを周知するための工夫（海が存在、公園の広さ等）／自己責任のもとでの立入（高台から離れたエリアについて）／避難ルールづくり（土地を知るお年寄りや避難経験者へのヒアリング）／地域で避難マップを作成、来園者へ周知／毎日避難訓練を行う

テーマ2：利活用（教訓の伝承）

- ＜誰に＞ 次世代の子供たち／次に津波のリスクがある地域の人／津波を経験していない人／災害のリスクを抱えている人／修学旅行生
- ＜何を＞ 命の大切さ／地元の人にとって見るのが辛い津波の体験／復興の経過と町や住民意識の変化／目に見えない市民の感情／避難所や仮設住宅等での暮らしぶり／障がい者の死亡率が高かったこと
- ＜どんなふうに＞ 展示を常に更新できるようにする／災害は日常の中で起こりうると実感できるように／情報収集や研修が行える施設に
- ＜震災遺構＞ 災害のダメージが理解できるものは残しておきたい／雨ざらしで痛んで震災のダメージと分からなくなってしまうのなら残す意味がないのでは／二次災害が起こらないことが必須／その場で厳かな気持ちになれる見方や伝え方／希望者だけでも中に入れるような手直しを／中の様子が分かるカメラの設置

テーマ3：利活用（レクリエーション・交流）

- ＜市民の利用する公園＞ 日常的に使う場所は市街地に近い場所に／子供を遊ばせる場所を早期に／車道と交錯しない遊歩道・ランニングコース／市内各所の公園・施設（野外活動センター等）との役割分担／駐車場の充実／使いやすく維持管理がしやすい施設
- ＜市街地との連携＞ 公園内で完結しない利用形態（市街地での宿泊・飲食などと連携した取り組み）／市街地の商業者も参加した検討／公園内施設で市街地の魅力発信（スマホ等の活用）／公園と市街地を巡る交通システム・乗り物、ストーリー性のある周遊ルート
- ＜地域の参加＞ 地域事業者が優先して公園内に开店できる仕組み／公園管理への地元企業の参加
- ＜市外からの来園者・リピーター確保＞ 県内被災自治体の情報発信ブース／がれきやモザイクアート・植樹等の継続参加型イベント／被災前からの高田の歴史文化の紹介／修学旅行生の受入／地場産食材を使った飲食／スポーツ施設の充実／特定のスポーツに特化する／釣り・カヤック等の水辺の利用／子供が行きたくなる施設等の整備／花火、マラソン、ロックフェス等の大規模イベントの開催／津波以外の特色も必要

テーマ4：植栽・自然再生

- ＜高田らしさ＞ 高田松原の復活／ツバキ・ツツジ・チャノキ（気仙茶）・ヒカミサンベニヤマボウシなど高田らしい植栽／リンゴ・牡蠣・わかめ・タカタノユメなど特産品の販売／震災前の松原にあったハマナス等の復活／高田松原のDNAをもつマツ苗植栽
- ＜収穫の楽しみ＞ 収穫したハーブティーなどを飲める場所を／ツバキ油の活用・実の換金／松原でキノコの収穫
- ＜水辺の利活用＞ 湿地の環境学習施設／シジミがとれる古川沼に／釣り堀・カキ小屋／噴水を設置し水質浄化と観光に／海水浴の復活／恋人の聖地づくり／白鳥が憩う沼にする
- ＜維持管理・市民参加＞ 渇水用の水源確保／松葉を肥料に／年間の維持管理を平準化できる植栽計画／来園した観光客が気軽に参加できる維持管理プログラム／ヤギによる除草／学校との連携／市民の手でマツ苗の植樹を／花や農業・漁業など専門家に協力・支援してもらえる仕組みづくり／園芸講座等の学びの場／公園内で活動する人たちの交流の場
- ＜その他＞ キャンプ・バーベキューがしたい／木材など自然素材を使った公園づくり／季節ごとに花を楽しめる公園／潮風に耐える品種を植えるなど適材適所の植栽／陸前高田市と交流のある都市に関わる樹木の植栽／昔のように花見ができる桜の復活

第3回 開催結果報告

高田松原津波復興祈念公園 市民協働ワークショップ

～ すぐ始められる取組みを探そう!～

平成 28 年 6 月 15 日開催

県では、東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市高田松原地区を対象に、学識経験者等で構成する有識者委員会を設置し、本公園の基本設計の検討を進めています。その一環として平成 28 年 6 月 15 日に、地域の皆様に本公園の検討状況等についてお知らせし、より良い公園とするための意見交換の場として、「高田松原津波復興祈念公園市民協働ワークショップ～第3回 すぐ始められる取組みを探そう!～」を開催しました。

ワークショップには、20歳代から70歳代までの幅広い世代の方々、36名にご参加いただき、テーマ毎に分かれて意見交換を行い、最後はグループ毎に発表を行いました。

■ワークショップの内容

開催日：平成 28 年 6 月 15 日 (水)

開催場所：陸前高田市役所 4 号棟 3 階第 6 会議室

開催時間：18 時 30 分から 21 時

参加人数：36 名

1 <全体説明>



第 2 回市民協働ワークショップの結果概要、本公園の基本設計の検討状況、震災津波伝承施設展示等基本計画の検討状況等について説明を行いました。

2 <テーマ別意見交換>



第 2 回とおなじ 4 つのテーマ (5 グループ) に分かれて、「誰が」「どこで」や、「自分ならどうしたい」などの観点から、第 2 回の意見をより具体的に深めました。

3 <意見発表>



最後に、各グループで出された主な意見の発表を行い、全テーマの議論の内容を全員で共有しました。主な意見は以下に示したとおりです。

■第3回ワークショップ 参加者の皆さんからの主な意見

テーマ1：高田松原の利用のリスク軽減

<完成前の避難ルート検証> 完成前の見学会的に逃げ地図作成をとおして検証/休工期等を利用し工事期間中の対応を含めて検証/障がいがある人も検証の場に入ってもらい、移動速度等を考えるべき

<逃げ地図づくり> 当初は行政主体の有志で作成し、定期更新が出来る仕組みへと発展/作成事例を活かし地域住民や小・中学校の参加 (中学生が小学生に教える等の連携) /道の駅・伝承施設スタッフの参加

<来園者への周知> 全員に避難地点とルートを周知出来る仕組み/危険な場所にいることを全員に知らせ、分かってもらう/非常時は市民が率先して声かけしながら逃げる/逃げ地図パンフレットを周知に活用/避難ルートを利用したスタンプラリー/避難上のポイントに現在地入りの地図を設置/避難到達地点に灯台のような明るい光等の目印を設置

<障がいがある人への対応> 誰にでも分かり見やすいサイン (ピクトグラム等) /アイマスクや耳栓を用いた検証/様々な障がい種別を考慮

<車での避難ルール・国道の横断> 立体横断施設の設置が必要/車での夜間利用をもっと想定すべき

<子供達への教育・伝承> 小・中学校で避難訓練を実施/防災教育の場として公園を活用 (リスクを伴うために、学校教育に取り入れる前に先行的な取組みがあるべき) /市内の学校のカリキュラムに避難教育を取り入れる/市長に学校教育にとりいれるよう提唱してもらう

テーマ2：利活用（教訓の伝承）

- ＜誰に伝承するか＞津波を経験していないすべての人／子供たち／海外も含めた地域外の人
- ＜何を伝承するか＞命の大切さ／人の強さ／津波の恐ろしさ／被害の大きさ／繰り返さないための手段
- ＜どのように伝承するか＞視覚的に伝える／津波の高さまで上るなど体験で伝える／津波の強さや速さをイメージしやすく伝える
- ＜どの場所で伝えるか＞公園としての祈りの場が必要／エリア毎に想定される来園目的に応じて伝承する内容に変化をつける／主に国のエリアだが園内各所で被災地であると気が付くしくみも必要／広島平和記念公園のようにしっかり学べる場が必要
- ＜追悼・鎮魂の方法＞亡くなった方の名前と年齢を刻む／追悼の鐘を設置／花を供える場所を設ける／3月11日に海上七夕や灯籠流しを行う
- ＜遺構の活用方法＞下から眺めても津波の威力は伝わらない／タピックの上に上がり津波の高さを伝える／中に入れないなら映像で示す／気仙中学校は避難、定住促進住宅は日常生活と被災などメッセージを絞る／地図等により遺構を巡るしくみづくり／被災前後の写真とセットで見ってもらう
- ＜市民のできることに＞被災者の声を映像化して残す／今後も市民の声を施設や展示に反映させる／解説者として来訪者に伝える

テーマ3：利活用（レクリエーション・交流）-1

- ＜参加型のイベントの開催・リピーターの確保＞高田松原の再生活動への市民・来園者の参加・活動主体としての「高田松原を守る会」との連携／「マルゴト陸前高田」などの既存の活動団体との連携／来園者が長い時間をかけて完成させるモザイクアート／福祉施設等と連携したアートのピース作成・販売／RVパークの整備／体育協会等の意見を反映した運動施設整備・体育協会等が主体となった大会等の誘致
- ＜中心市街地と公園の一体的な利用＞本丸公園からの眺望等、市街地に行かなければ体験できない魅力づくり／祈念公園、市街地で機能の分担・調整／公園と市街地を巡るストーリーづくり／商工会、マルゴト陸前高田、SAVE TAKATA などの関連する取り組みを行っている団体との情報交換／復興支援連絡会等の既存の場の有効活用（半島、内陸の活動団体の参加を含む）
- ＜市民協働による公園の受入体制＞高田高校の生徒による震災に関する研究成果の発信・全国各地の高校等と交流／被災前の高田松原公園で行われていた市民による維持管理活動の継続（地域文化・伝統としての継承）／市民の参加や利活用のアイデアなどを柔軟に受け入れることができる管理運営体制の構築（指定管理者制度等による民間、地元企業・団体の活用等）

テーマ3：利活用（レクリエーション・交流）-2

- ＜中心市街地と公園の一体的な利用＞公園の利活用には中心市街地との連携が最も重要／連携に必要な各エリアの機能を明確にし、行政、民間（商業関係者、住民）それぞれで役割分担しながら協働／イベントを企画・運営し、人や団体をつなぐ役割を担う組織・人材（コーディネーター）も重要
- ＜川原川とシンボルロードに挟まれた区域での取組—行政主体＞公園と市街地をつなぐ魅力ある移手段導入／フリーマーケット等のイベント開催による集客（まずこの区域に人を集め、隣接する公園と市街地へ誘導）
- ＜本丸公園での取組—行政主体＞本丸公園からの眺望確保／公園と市街地の情報提供／震災前後の違いがわかる写真掲示等
- ＜公園での取組—行政主体＞人を誘う新・道の駅（物販）のにぎわいの演出、45号からのわかりやすさ（見え方・案内標識等の整備）／撮影スポットの案内（市街地～本丸公園へ誘導）／避難訓練により公園から市街地へ誘導
- ＜公園での取組—住民主体＞コミュニティ単位での草刈り活動等
- ＜全体での取組—商業関係者主体＞公園と中心市街地を巡るスタンプラリーの開催等／中心市街地と連動したイベント開催

テーマ4：植栽・自然再生

- ＜松原＞公園全体としては高田らしさを松原を主体とすべき／苗の提供～植樹～維持管理まで可能な限り市民ボランティアと協力しながら活動していきたい（高田松原を守る会）／松原を通して様々な活動・交流が生まれるような公園としたい／津波エネルギーの減衰・苗の育成等をふまえて松原の幅はできるだけ広くしたい／全国の松原保全団体と連携した取組みができるとうい／市民が自ら植栽する場所を増やすことで公園に対する愛着を育みリピーター増につなげたい
- ＜海浜植物＞ニッコウキスゲ、ハマナスは第一線堤と第二線堤の間、コウボウシバ、オカヒジキ等は、第一線堤の海側が生育に適している
- ＜桜＞松が小さいうちは桜が潮風に耐えられない可能性が高く植栽位置の検討必要／早咲き・遅咲き等の品種を混ぜ長時間花を楽しめるようにしたい／維持管理等の協力を前向きに検討（桜ライン311）
- ＜その他＞市民参加の花時計づくりや、目玉となる植栽等で公園のみどころづくり・訪れる人へのもてなしに／植栽にもストーリー性をもたせたい／日本古来の植種や地元の植種の使用／在来種選定により維持管理の手間削減を図るべき／周辺地域の樹木移植等も検討し公園に取込めるとよい／つくりこまないエリアを設け復興とあわせて自然が再生する力強さを感じられる場としたい／様々な植物の北限であることに着目し収穫も楽しめる植栽を行い観光客誘致に／市民が自由に花を植えられるスペースがあるとよい／誰でも気軽に参加できるような雰囲気づくり、市民参加による管理の仕組みづくり等を今後具体的に検討すべき